

移住者に選ばれる地域になるためには？

―徳島・神山における、好条件を並べない移住対応―

有限会社リビングワールド代表 ● 西村 佳哲

地域活性化センターでは、地方創生の担い手となる人材の養成を目的としたワークショップ「地方創生実践塾」を実施している。9月16日(水)、17日(木)、18日(金)に徳島県神山町で開催された実践塾の内容について、主任講師の西村佳哲氏にご報告いただいた。

(地域支援課)

今回の実践塾の趣旨

地域活性化センターから「移住者に選ばれる地域になるためには？」というテーマを受け取り、この問いをめぐって集まる方々の関心に、真つ正面から応える2泊3日を用意したいと思った。ただし最初に述べると、神山町行政にも、地域に住む人々の間にも、「移住者に選ばれる地域になる」という意識はあまりないと思う。それ以前に、貸し物件不足で、移住促進センターのウェイトイング・リストは200人を超しているようだ。

にもかかわらず、寸隙をぬうように面白い人々が移り住んで来ている事実があり、その人々には、共通

して健やかな自立性を感じられる。研修の後、ある参加者は「結果としてしか起こりえないことを目的化しない」という言葉が心に残っているし、その意味で神山に納得感を得たと語っていた。転入増の目標を設定し、そのための施策を講じて数値が達成されたところで、そこにさしたる喜びはないのではないか。計画が予定通り遂行されただけのこと、かつ来年もまた同じことをつづけなければならぬ。それでは「出会い」の一部始終が、ただの「作業」になってしまふ。

フィールドワーク(1日目)

研修は座学中心になりやすい。しかし、せっかく現地にいるのだから、

まちの空気感に触れる時間もとりたい。かといってフィールドワークの時間枠を大人数の団体行動にしてしまうと、一人ひとりの経験の質は下がってしまう。ではどうするか。

参加者を空港と車でピックアップしたバスは、1時間ほどかけて神山のエリアに入り、移住者のピザ屋さんや、カフェ、食堂等の前で停まり、各所で数人ずつを降ろす。こちらが選んだいくつかの店で、少人数に分かれて昼食をいただくところからプログラムに入っていた。

移住後の人々が地域でどのように営んでいるのか、その様子を感じていただいた後、メイン会場の宿泊施設「WEKK神山」へ。ここは今年7月にオープンしたサテライトワークをメインに据えた宿泊施設で、「いつもの仕事を、ちがう場所で」というコンセプトを掲げている。「WEKK神山」に集まった参加者(全34人)は短いオリエンテーションの後、約3人ずつの小グループに分かれ、今度は歩いて約4時間のフィールドワークに出かけた。まちの地図と公共バスの時刻表を片手に。地図には移住者が開店した靴屋、オフィス、お弁当屋、また移住促進センターや、移住者の世話役のような人の家な



フィールドワーク中の参加者

ど、約10カ所がプロットされている。相手先には、もし小グループが訪れたら、可能な範囲で話に付き合ってもらいたいという了解を事前にとっている。4時間後、みなさんはひとまず「なるほど」という表情で戻ってきた。

夕食後、神山のNPO法人グリーンバレー理事長・大南信也さんの話を聞く。この地域における移住増や、生き生きとした展開が、一朝一夕の企画ではなく約20年におよぶ積み重ねの最上段にあることをわかっていただけたと思う。

トークセッション(2日目)

2日目は町内から4人のゲストを招いて、各1・5時間のトークセッ

シヨンをもらった。1年ほど前に移り住んだ3Dモデラーの寺田天志さん。10年少々前にまちなちに来て、2年前に歯科医院をひらいた手島恭子さん。まちの写真館の娘として生まれ、ご夫婦で3年ほど前に戻った近藤奈央さん。「神山塾」と呼ばれる就労支援事業で、多数の若者の移住のきっかけをつくり出している祁答院弘智さん。

各1・5時間と書いたが、ゲストに持参してもらったプレゼンテーションは20分間。話が一段落したら、3人ほどの小グループを会場側につくり、「いまの話はどう聞いたか？」を語り合う時間を10分ほど持つ。続けて私が公開インタビューを行い、本人自らは語らなかつた部分に光をあて、一段落するとまた別の3人組みで語り合う。そして最後に、ゆっ



お話を聞いて、語り合う参加者

くり質疑応答を交わす時間を30分以上とった。

一方的に聞くのではなく、めいめいが話す機会を持つことで、より自分事に話を近づけることが出来る。同じ話を聞いていても、聞いているポイントには人によって見事に違う。捉え方も異なるので、小さな語り合いを通じてゲストの話はより立体性を増す。

2日目の夜は2年前に移住者がひらいたフレンチ・ビストロで、さらにもう6人の移住者も招いて美味しい食事と歓談の時間を。気さくな町長も参加して、楽しい夜を過ごした。

ワークショップ（3日目）

最終日は、神山町役場総務課の村谷氏と私がまとめ役を担っている、神山における地方創生「まちなちと



トークセッションの様子

しごと総合戦略策定」の最新の状況をご紹介します。

人口の獲得という課題に際し、出産世代の優遇や助成制度など、条件面の拡充を考える地域は多いだろう。しかし、ともに生きてゆく相手や勤め先、生きてゆく地域を、条件で選ぶような人は、より条件のよい地域に移り住む。消費者向けの購買促進と同じ構造で移住政策を考えるのは、あまり得策でないと思う。

大事なポイントはサービスの質を上げることより、バリアフリーにしてゆくことではないか。そのときその地域を選ぶ人たちは、本人自身の感覚と意志と力で動く。なので継続する。

神山は近年メディアで取り上げられる機会が多いが、実際に来てみると、一部に写真スポット化した場所があるものの、全体像はつかみにくい。いったいなぜこのまちに、面白い人たちが集まり始めているのか、よくわからないまま帰る人も多いだろう。しかし、そのわかりにくさが実は神山の力強さでもあることが、この研修を通じて感覚的に共有出来たとしたら、準

備した甲斐があったものだと思う。先の「面白い」人たちとは、誰に言われたわけでもなく何かを始め、しかもとことんやるような生き方や働き方を指している。アーティストも同じく。神山には、移住増を促進する汎用的な方法論があるわけではなく、人のあり方やかわり方の違いがプロセスの質を変え、その帰結として結果が生じているのだと思う。

地方創生実践塾（徳島県神山町）の概要

第1日目 9月16日（水）

- フィールドワーク① 移住者が営む飲食店を体験【昼食】
- フィールドワーク② 小グループにわかれ、移住者が開店したお店やオフィス、移住促進センターなど見学
- お話① NPO 法人グリーンバレー理事長 大南 信也 氏

第2日目 9月17日（木）

- 町内から4人のゲストを招いてのトークセッション
- お話② 寺田 天志 氏（CGクリエイター）
- お話③ 手島 恭子 氏（COCO 歯科 院長）
- お話④ 近藤 奈央 氏（倉良写真館）
- お話⑤ 祁答院 弘智氏（株式会社リレイション代表）

第3日目 9月18日（金）

- ワークショップ 主任講師：西村 佳哲 氏